

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

圏域人口：43,966人
高齢者人口：14,914人
高齢化率：33.9%

庄内地区は豊中市の南の端に位置しており、北は名神高速道路、南は神崎川、西は旧猪名川、東は天竺川にかこまれた地域である。大阪都心からも近いため、昭和30年代に人口が急増、農地や低湿地が住宅密集地に急変。都市基盤が未整備のまま、木造アパートや文化住宅が無秩序に建てられた。最近、古い集合住宅を解体して、戸建て住宅やマンションに建て替えるケースも徐々に増えてきたが、それでもまだ単身者向けの古い住宅が多く残っており、高齢化率、高齢独居世帯比率ともに市の平均と比較して非常に高い。低家賃の住宅が多いため、生活保護受給率も高く、市平均2.6%に対して、庄内は7.1%と3倍近くになっている。このような地域特性から、経済的困窮・認知症・精神疾患・虐待といった課題が重複している相談ケースが多くなっている。

豊南市場がある庄内駅周辺は、買い物客が多く、活気ある地域である。昔ながらの近所づきあいが残っている地域も多く、年々下がってはいるものの、自治会の加入率は比較的高い。また大阪音楽大学や文化ホールなどもあり、文化的な側面も見られる地域でもある。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

- ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護・医療関係者と民生委員・校区福祉委員・自治会関係者とのネットワークづくりを行う。
- ・地域ケア会議を通じて、自立支援のための介護予防ケアマネジメントの向上に資する取り組みを行う。
- ・地域教室やサロン、通い場づくり支援事業を通じて介護予防の推進を図る。
- ・公正中立性の確保を行う。

【特に力を入れて活動している点】

- ・庄内ケアマネット、ケアマネジャー向け研修、事例検討会等の実施による、介護支援専門員の資質向上とネットワークづくりを行っている。
- ・地域の通い場づくり支援事業やぐるっと庄西・島田の活動を通じて、高齢者の居場所づくりを行っている。
- ・「ほっとライン庄内」の実施により、在宅医療連携の推進と、医療・介護関係者の顔の見える関係づくりを行っている。

【活動の中での課題やその解決策】

- ・急速な高齢化に伴い、支援が必要な認知症高齢者の増加
⇒認知症専門医、オレンジチームとの連携、認知症サポーターの養成
- ・8050問題など、高齢者本人以外の家族への支援の必要性増加
⇒社協CSW、くらし支援課等の関係機関との連携
- ・複数の課題が重複した相談の増加
⇒医療機関、介護保険事業者、地域関係者、行政との連携、職員の専門性向上

総評

前回の外部評価の内容を踏まえ、業務内容が改善されています。特に全ての校区での高齢部会の開催や、SNSを取り入れ、地域に根付いた活動が増えています。

包括に配置することとなっている3職種の専門性を活かした業務分担や、連携を意識した業務の実施となっています。

今後は、サービス事業所の偏りの是正や、記録の整備について、より具体的な記載をするなどの取組が望まれます。

好事例

職員の研修について、個別面談を実施したうえで個別の研修計画を作成し、職員の資質向上に努めています。

包括内において苦情相談検討委員会を実施し、苦情に至らない事案も取り上げて改善につなげる努力をしています。